

新年のご挨拶 院長 濱中喜晴



謹んで新春の
およろこびを
申し上げます
本年が新たな
希望に満ちた
年になりますよう
心より祈っております



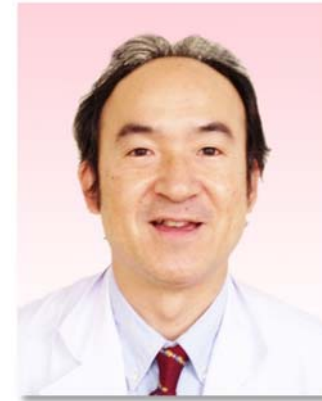
昨年秋の叙勲におきまして、平成27年3月末に広島県病院事業管理者を退任されました大濱三先生が、瑞宝小綬章を受章されました。これは大濱先生が、県立広島病院や県立安芸津病院はもとより、広島県全体の保健医療活動において、その職責を果たされたことに対する受章であろうと思っています。私は大濱先生の受章を心からお祝いすると同時に、県立安芸津病院が、大濱先生が目指した「地域の医療を支える病院」となれるよう頑張っていくと、決意を新たにいたしました。

県立安芸津病院は「地域に密着した病院」を目指しています。

1. 「地域に密着した病院」とは、病院での入院治療だけでなく、退院後も地域で安心して生活できるように、地域の医療機関や福祉・行政などの皆さんと協力して、在宅療養を支援していく病院です。訪問看護、訪問リハビリ、訪問診療等を行い、地域の皆様と連携して、住み慣れた地域で望む生活ができるように、ともに考えていきます。
2. 「地域に密着した病院」とは、地域の医療機関や福祉施設をバックアップして、必要な入院治療や救急医療を行う病院です。当院は竹原地区医師会と協力して、夜間・休日の救急当番を行っています。平日の当番日は月曜と木曜です。(安田病院は火曜と土曜 馬場病院は水曜と金曜です。) 当番日以外の日、電話で相談を受けて、当院での受入れが困難な場合には、竹原地区の当番病院や西条地区や呉地区などの高次医療機能を持つ病院へ受診していただくよう、お願いしています。安芸津・竹原地区の救急医療を存続させていくために、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。
3. 「地域に密着した病院」とは、「健康長寿」の地域づくりを支援する病院です。医療公開講座や出前講座において、また地域の催しへの参加を通じて、転倒予防体操の普及や健康に対する意識を向上させ、予防医療を推進します。検診(健診)受診率を高めるように働きかけ、胃や大腸の内視鏡検査などによる病気の早期発見にも努めます。結果として、皆様健康を保ち、安心して暮らせる地域となることを目指しています。

県立安芸津病院は、身近で気軽に「何でも相談できる医療機関」となれるように、このような「地域に密着した病院」を目指して、今年も一つ一つ取り組んでまいりますので、皆様のご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶 副院長 後藤俊彦

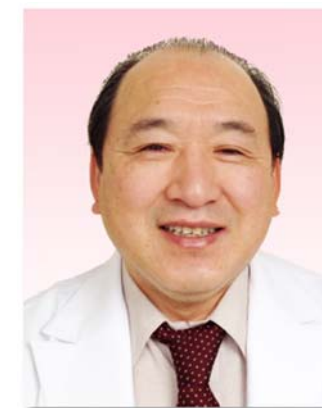


皆様、あけましておめでとうございます。寒さ厳しき折皆様におかれまして如何お過ごしでしょうか？我々は今年も安芸津町における健康寿命を延ばすべく努力してゆく所存でございます。具体的には足腰が悪いために歩けなくなり、寝たきりになるのを防ぐため予防医療、鎮痛医療を積極的に行い、適応があれば手術により寝たきりゼロを目指します。骨粗鬆症では背骨、腰骨の圧迫骨折による痛みから歩行困難、寝たきりとなる可能性が高く内服、注射の両面から予防と進行防止、鎮痛に努めています。高齢者の多くは骨粗鬆症を有しており、まずは骨密度測定、レントゲンによる診断を行い、血液検査でその程度を把握し、患者様それぞれに最適な治療法を選択します。非常に強力な圧迫骨折治療薬の導入も済ませ効果を上げています。痛みが軽快してきたらコルセットを装着し

歩行をしていただきます。骨粗鬆症による圧迫骨折の治療自体はシンプルですが、骨がつくのに時間がかかるため忍耐が必要です。安芸津病院ではその間の患者様を身体的・心理的にサポートすべく職員一同努力しております。特に看護、リハビリテーションに対し患者様からの感謝の声を多く頂いており、今年もこの強みを生かしながら頑張りたいと思いますので“寝たきりゼロ”をめざし共に進んでいきましょう！



新年のご挨拶 緩和ケア科主任部長 澤村明廣



明けましておめでとうございます。早いもので、緩和ケア科が開設されて4月で1年を迎えようとしています。昨年は、緩和ケア科の新規患者数は25名(院内紹介19名、院外紹介6名)でした。昨年、外来患者さんや第21回県立安芸津病院医療公開講座の参加者の方々にアンケート調査をさせていただきました。緩和ケアのことを知っている人は4割しかいませんでした。地域の医療関係者だけでなく、患者さんにも、まだ認識されていないことが実感されました。さらにアドバンス・ケア・プランニング(将来の意思決定能力の低下に備えて、今後の治療・療養について医療者が患者さん・ご家族とあらかじめ話し合う共同作業のプロセス)に関しては、90%以上の方が知りませんでした。また、ほとんどの人が、緩和ケアはがん末期に受けるものだと思われていました。緩和ケアは、

がんと診断された時から始めなければなりません。たとえば、手術の後の痛みを和らげることも緩和ケアなのです。さらに、がんだけでなく、慢性疼痛などの様々な症状を和らげることも緩和ケアなのです。今後高齢者の人口が増え、老老介護、独居の方も増えていきます。そうした状況の中で、自分が判断できなくなった時、少なくとも受けたくない(望まない)医療については、ご自分で選択しておくべきではないでしょうか。これがアドバンス・ケア・プランニングの根幹なのです。自分が介護を受け始めた時、病気になったときでも構いません。ぜひ、そのことを医療者に相談してください。当科では、緩和ケアだけでなく、アドバンス・ケア・プランニングも含めた病病、病診さらには、病院介護連携をさらに深めていきたいと思っています。お困りのことがあれば、気軽にご相談ください。